

保育目標の達成	職員間の連携	地域とのコミュニケーション
<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思いやりのある優しい子 ・自分で決めて自分で行える子 ・遊びを通して何事にも意欲的に取り組む子 ・異年齢保育の交流を図りながら年下の子を思いやれるように育つ援助をしていく <p>【達成度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異年齢児との関わりの中で譲り合えるように見守りながらの声かけを行った ・乳児は最年長の暮らすにお世話をしてもらい、ふれあう機会を多く持つことができた。一方で3歳・4歳児クラスとの関わりが希薄であったことが今後の課題である。 ・クラスの活動や園行事など意欲を持って自ら活動できるよう保育の設定を工夫し、取り組みやすいような配慮を行った。 ・子どもの気持ちを尊重して遊びを選べるような状況を増やした。また集中して取り組めるように遊ぶペースを分けて環境を整えていった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数の利点を活かし、毎週のクラスの様子を報告し情報を共有をすることで全職員が園全体の状況を把握し、職員間の連もを図ることが出来た。 ・乳児・幼児クラスにフロアリーダーを配置し情報共有を頻繁に行い、各クラスのリアルタイムでの相互理解度が高まった。 ・主任・非常勤職員を効率的に配置することで、事務作業の負担を軽減し、保育の質の向上を意識しながら職員同士が主体的に園運営に関わる気持ちを持つことが出来た。 ・内部研修において「育みたい資質、能力の3本の柱」「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」の再確認を行い保育計画の充実を図るとともに職員のそれぞれが思う子どもの姿を伝え合うことで園の特徴を捉え、次年度の園目標につなげることが出来た。 	<ul style="list-style-type: none"> ・戸外活動の時には保育者が率先して地域の方々に挨拶することを心がけているため、子どもも一緒に挨拶できるようになった。 ・夕涼みやハロウィンなどの行事や音あそび・英語レッスンなどの外部講師によるレッスンに連携園を招待し交流を図ることができた。また、連携園2歳児との交流をおこなったことで職員間での情報交換ができ、3歳児段階での入園がスムーズにおこなえた。 ・子育て広場での園開放を通して、地元の子育て世帯との交流を持つことができた。 ・10月のさがみはら保育フェスを企画し、多くの保育園・近隣住民に参加していただいた。小規模認可園・認定保育室の説明会もおこない、保育園を必要としている方々へ利便性を図った。 ・ファミリーマート駅前店さんでは季節のぬりえの展示、神奈川トヨタさんでは整備工場の見学、交通安全教室とう近隣企業との交流機会を増やし、様々な仕事に関心を持ったり、人と関わることの楽しさや大切さへの気付きを促した。

この評価のつけ方：

施設長・主任による各職員への聞き取り